

山岳友の会会報

2022年11月 第45号



谷川岳

も く じ

第58回現地研修会（伊豆・天城峠）	報告 細萱 繁	2
第27回上高地談話会（涸沢）	報告1 木原 清志	5
	報告2 小林 久雄	6

楽しかった『初夏の伊豆：天城峠・河津七滝そして沼津の魚（6/6-7）』紀行記 — 第 58 回現地研修会（伊豆・天城峠）報告 —

細萱 繁

前夜から激しい雨が降り続く夜明けを迎えたが、旅行気分が高じてよく眠れなかった。大糸線豊科駅 6:36 発上諏訪行に乗ろうと、早目の出発ができた。駅に入ると初電が遅れているのではないかと。駅員の案内により乗車券を買わず、地下道を走り抜け、飛び乗ることができた。車掌のお詫び車内放送によれば、大雨による線路点検徐行運転を、始発信濃大町～豊科間で行い、松本到着が 20 分遅れになった故。私にとっては逆に所定の 2 番電車より、20 分余り早着になった。

松本駅アルプス口乗車 5 名は 7:00 過ぎには揃い、早速のせっかち発車で、次の集合地みどり湖 PA へ進み、9 名の乗り込みがあって、総勢 14 名での旅が始まった。

ここで、この先清水港～土肥港間の駿河湾フェリーに乗船予定であったのだが、悪天候（雨・濃霧・波浪？）のため、欠航している情報が入った。依って、今春全通した中部横断道で清水へのルート変更を余儀無くされた。

中央道をそのまま進み、東富士五湖道・東名・伊豆縦貫道・伊豆中央道・天城北道経由に、こちらも高速一本道に変え、昼食地の西伊豆堂ヶ島を目指すこととなった。

降り止まない雨で、山並の眺望は全く利かず、ひたすら車内飲みで勤しむだけの 4 時間余である。途中、東富士五湖道が延びて、新東名に連結したばかりの新道を通ることができ、快適な道路網の新たな発見である。興味ある沿線の水田は、我が家の稲より生育が進んでいる所もあれば、温暖地域では今が田植え期であったり、作付けに大きな相違がある車窓の眺めものんびり楽しめた。

伊豆西海岸は小降りになったが、白波が立って、煙って見通せない。漸く、西伊豆町堂ヶ島に到着。名勝地なのに、コロナ禍の雨降り月曜日であるためか、人・車の動きは無く寂しい。広場に面した「瀬浜寿し」2 階に通され、座卓を囲んで「盛り沢山の海鮮丼」を嗜む。海辺の魚料理を堪能。絶好の食事場所を選んでいただけた。

満腹のまま、隣町の松崎町へ移動。ここ松崎は、旧安曇村（松本市）と友好都市として住民交流事業を行っている。昭和 50 年に重要文化財に指定された「^{いわしな}岩科学校」に立寄る。明治 13 年に建てられた伊豆地区最古の学校。バルコニー、なまこ壁、土蔵づくりなど、和洋が調和した 2 階建校舎。開校当時は 200 余人の生徒が通っていたと言う小ぢんまりとした建物。昭和 53 年まで一部を特別教室として、隣接する幼・小・中学校で使用しており、昭和 55 年に一般公開が始まった。その後、老朽化が進んだため、平成 2 年から 2 年間をかけ半解体の修復工事を行った。平成 17 年には、国宝・旧開智学校（松本市）と姉妹館提携し、親善友好を深め、佐久・中込学校の紹介と共に展示整備されていた。

次も隣町になる河津町、河津バガテル公園だ。隣町とは言え、西伊豆から東伊豆への山越え。標高 400m 程の峠であるが、深い谷を多雨によって育つうっそうとした森林帯を辿る。東海岸へ下り込む山腹を開削して造成されたバラ園である。世界のバラ 1,100 種 6,000 株の今や花盛りのバラの香りに包まれる野球場ほどの広大な、色彩・眺望・空間の全てが計算し尽された左右対称が美しいフランス庭園式ローズガーデン。バラ植栽を囲むツゲ垣は絵画の額を意味し、厳密に高さや幅が決められている。その昔、フランスのお城からの眺望を意識してできたと言われるフランス庭園の美しさを楽しんでいただけますとの案内。ところが、海風に乗って激しい横殴りの雨に遭遇してしまい、傘はチョコになり、樹木の若枝が散乱する最悪の空模様、園内通路は至る所水浸しである。バラ観賞どころではない。園外には、ショップやカフェに囲まれたフランス広場や、バラ育種している観賞温室 2 棟があって、よく管理された

伊豆ならではの観光バラ園でありました。

今日の観光はこれで終り、河津河畔の桜並木や伊豆東海岸を眺めつつ、宿泊地の稲取温泉へ向う。

稲取岬の荒磯海岸に立地する「海一望絶景の宿、いなとり荘」である。「旅のはじまりは、海と対座する、優雅な解放感でした」が謳い文句。ロビーラウンジ・部屋・風呂・朝食ダイニングルーム、施設全てが海を取り込んでいる。夜半には天候が回復して、目前の相模灘沖を行き交う船の明かりが見えた。翌朝は伊豆七島の一部、左から伊豆大島・正面に利島・新島、三宅島・式根島・神津島が大海原に雄大に浮かんでいた。海の景色のほか、温泉地である風呂の設備がこれまた素晴らしい。「旅の醍醐味である温泉を、いかにお楽しみいただくかという課題に、お風呂だけのゾーンとして『温泉メゾネット』を選びました」と、8階建て温泉塔・ゆの蔵が併設されていて、客室棟3階から行き着いたのが温泉塔湯上がりラウンジ、ここからは4階の男湯、6階の女湯、8階は4つの貸切露天風呂へとエレベーター利用。4・5階の男湯内は階段を使う。志向を凝らした様々な湯船が眺えていた。客室の最上階7階には、展望大浴場・絶景露天風呂があり、温泉贅沢三昧を満喫。こんなにも設備が整った宿であるから、食事でも『潮騒遊膳、心にごちそう』のおもてなしを受けた。観光気分を存分に味わい癒されました。

旅先で集合写真を済ませ、出発。暫く河津川を遡ってゆくと、左手谷間に湯ヶ野温泉があった。川端康成の名作「伊豆の踊子」の踊子は、修善寺から天城を越えて来ているが、この湯ヶ野温泉と東海岸河津を結ぶ天城街道を舞台に展開する。また、修善寺側浄蓮の滝を起点に、旧天城トンネルを越え、河津側ここ湯ヶ野温泉までが18.5km6時間強の長いウォーキングコース・踊子歩道になっている。

この湯ヶ野温泉には、川端康成ゆかりの宿「福田屋」があり、小説のなかで主人公(学生)が泊った宿でもある。踊子の一行は近くの宿に泊っていたが、対岸の共同湯(河原の露天風呂)の光景は、小説に描かれている。

スクリーンを彩った踊子は何と6人。

1933年(昭8)松竹 踊り子は田中絹代、学生役は大日方傳(白黒・サイレント映画)

1954年(昭29)松竹 美空ひばりと石濱朗(白黒映画)

1960年(昭35)松竹 鰐淵春子と津川雅彦

1963年(昭38)日活 吉永小百合と高橋英樹

1967年(昭42)東宝 内藤洋子と黒沢年男

1974年(昭49)東宝 山口百恵と三浦友和

と6作も制作されている。

この先、河津七滝^{ななだる}ループ橋の手前で旧道に入り、河津七滝観光センターPで下車。この崖下には伊豆で一番の迫力、落差30mの「大滝」があるが、川沿いに上流方へ踊子歩道を辿って15分程、落差10mの「初景の滝」を訪れた。滝壺脇に「踊子と私」像が立ち、「伊豆の踊子」の叙情をかもし出している。日本の滝百選に選ばれ天城山中随一の名瀑とされる、峠向うの「浄蓮の滝」と並ぶ、人気の滝でもある。

次はいよいよ旧天城トンネル歩きだ。天城山中を登坂し、新天城トンネル手前の二階滝Pに入って下車。杉林と広葉樹林が覆い被さる連絡歩道を一気に登ると、上段の旧天城街道に出た。巾員3~5m程の舗装道であったが、暫くすると、左下方からの新道を通る車がトンネルに入って気障りな騒音が急に絶えて、静粛さに包まれた辺りからは昔のままの砂利道に変わった。雨降る踊子歩道をのんびりと、深い森を味わい、緩やかな峠道を上り詰めて20分程で、眼前に旧天城トンネルが出現。この標高は708m。1905(明治38)年に完成、20×40cm角の切り石巻き工法で造られた、高さ3.5m、巾4.2m、長さ445m、修善寺側に下り勾配

で出口が見通せる直線トンネル。

120年経とうとする今もビクともせず、2001(平成13)年に道路トンネルとしては初めて国の重要文化財に指定されている。日本の道100選、日本の遊歩道100選、日本100名峠でもある。踊子の一行が歩いた当時は、灯が無かったが、今は25m置きに灯りが点り、トンネルの中はひんやりと涼しかった。

トンネルを抜けると、旧天城街道の案内板がいくつも設置されて、理解が深まる。国有林の杉林を行くと、小説の書き出しの一節(道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた)と、川端自身のレリーフがはめ込まれた「川端康成直筆の文字碑」を右に見て、バスが待つ水生地下Pへと下る。行き交う人が全く無く、山深く閑静な森に抱かれた、雨中の5km弱、1時間強の天城峠越えを、念願かなって楽しむことができた。

下田街道を下って、昨日の天城北道路・伊豆中央道を辿って、伊豆の国市葦山へ向かう。ここは、2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の北条家ゆかりの地。伊豆箱根鉄道葦山駅脇の葦山時代劇場内に「大河ドラマ館」が、来年1月15日迄の1年間、開館中。「鎌倉殿」とは史上初の武家政権鎌倉幕府の将軍のこと。源頼朝の天下取りは、13人の家臣団が支えていた。頼朝の死後、彼らは激しい内部抗争を繰り広げるが、その中で最後まで生き残り、遂に権力を手中に収めたのが、13人中最も若かった伊豆若武者・北条義時(演・小栗旬)であった。大河ドラマ館では、主人公の北条義時が源頼朝と出会い、父・時政、兄・宗時、姉・政子、妹・阿波局たちと共に、歴史を動かす存在へと成長していく姿を展示していて、ドラマのストーリーや登場人物をパネル紹介、人物関連図も、作中で登場した衣装や小道具が並び、シアター映像コーナーではドラマのダイジェスト紹介やメイン出演者のインタビュー、伊豆の国市で行われたオープンセットロケのメイキング映像のほか、市内の北条家ゆかりの地を紹介。当時の時代の雰囲気イメージした記念撮影用フォトスポットも設置されていた。足早見学であったが、ドラマのストーリーを知り、よりドラマへの興味を抱かせられた。

もう正午を過ぎてしまっている。駿河湾沿いに出て、沼津御用邸記念公園を横目に、最後の立ち寄り地、沼津港へ向かう。「なぜ沼津港の名が馳せ、人が集まるようになったのか？」国土交通省の登録制度で、①みなとを核としたまちづくりの促進、②みなとの利用者の利便の向上、③災害時の生活支援拠点の形成を目的として、機能や関係者の取組が充実しているみなとを認定している。「みなとオアシス沼津」は平成19年に登録。平常時は「賑わいのオアシス」として、地域の情報発信や住民と観光客の交流拠点になる魚市場・マーケットモール・深海水族館を整備し、場外市場も観光スポットとして充実発展している。災害時には「安心のオアシス」とする、津波避難・生活支援施設の大型展望水門と立体駐車場を建設して、地域を支える「みなとづくり」を進めた。

バス乗降場から場外市場に進み、「沼津魚市場のセリ権を持つ鮭屋、魚がし鮭沼津港店」に入る。店内も活況を呈し、奮発注文した「元祖デカねた超盛握り」を、箸を止めずに頬張る。確かに旨く、贅沢に尽きる。店を出て、賑わう場内を歩き回って、買物に勤しんだ。

沼津市街を横切って新東名へ、昨日通れなかった中部横断道から中央道へ。再び4時間余、車窓を楽しみつつ、松本への帰路について。

各所の富士山絶景ポイントを通りながらも、両日共に全く拝めなかった。でも、美味しかった鮮魚料理、逸楽に浸れた温泉宿、期待通りの緑深く清閑な天城峠散策、伊豆の旅を満喫することができました。行程の企画と、同行できた仲間達に感謝いたします。

私の第 27 回上高地（涸沢）談話会

—第 27 回上高地談話会（涸沢）報告 その 1—

木原 清志



今回の話題提供

7 月 4 日(月) 15:00～16:00

『北米での経験を通して見た北アルプスと、山小屋という文化について』

山田 耕太郎(横尾山荘専務)

参加者 22 名(うち遅刻者 1 名)

2012 年に入会し、この涸沢談話会のみ休まず参加させていただいています。豪雨などで 2～3 回は中止となりましたが、それでも市川さんの待つ涸沢ヒュッテに向かったこともありました。

初めて参加させていただいた時の講義は、
「涸沢カール氷河・地球の歴史」朝日克彦先生
「涸沢の山岳建築—その歴史に見る山岳・雪氷・建築」梅干野成央先生
ブラタモと建築の好きな私は目を丸くし、大きく耳をひらいて受講した記憶があります。

それから、いつかは山地低地河川の生き物のお話で水生生物の DNA から、昔は梓川が富山湾に流れていたとかを聞いて、今そのまま地形が変わらなかつたら長野富山はどのような経済圏になっていたのだろうか？なんて考えたことも。山に登って楽しい講義が聞けるこの「上高地（涸沢）談話会」が大好きになりました。

そして今回は、『北米での経験を通して見た北アルプスと、山小屋という文化について』というお題で、山田耕太郎氏(横尾山荘専務)が講義されました。ホテルマンとかいろんな職種を経験され、横尾山荘の後継ぎとなり、今年春にご結婚された奥様とご一緒に涸沢へ。

お話は、カナダカルガリーの滞在中に多くの国立公園を周り、山の植生、景観、宿泊可能な山小屋の少なさ、トイレの違いなどを説明していただきました。

私ごとですが、新婚旅行がカルガリー、バンフだったのでスクリーンに映る景色は本当に懐かしく見させていただきました。

バンフではお土産を入れるのに、赤青黄三色の MILLET ザックを購入した思い出があります。自慢のザックで、今も使っています。そういえば店員は日本人だった。

そのザックがまさか、涸沢で 2 つ並ぶとは思ってもみませんでした。もう一つの持ち主は小林さん!! 50 年も前に日本で購入したそうです。負けた。。

さて、講義も終わり 16:50 早々に夕食晩餐会です。



お山の中で山のような酒です。
山口会長の挨拶、涸沢ヒュッテ社長の挨拶ありで乾杯。
帰ってきた涸沢談話会です。

翌朝 5 日、天気は曇り。朝食をとり挨拶をして 7:50 頃下山。
横尾から車道を歩いてそのまま徳澤によらず明神まで行き、橋を渡って小梨平に向かうと 500m短縮できると聞き下山開始しました。横尾近くで、沢の遠くにクマを見たという登山者とすれ違い、それからビクビクキョロキョロしながらの単独行。
涸沢ヒュッテ 7:50～横尾 9:10～明神 11:00(昼食ぜんざい)～バスターミナル 12:00
今回も参加できたことに感謝いたします。
そして皆様お世話になりました。



追記

はじめて明神池穂高神社を拝観し驚きました。
一之池は水面からの靄が幻想的で、二之池はまさに池泉蓬莱式庭園を思わせ、借景に明神岳前穂高岳がそびえ絶景でした。自然が造作した芸術作品です。
家で待つ妻には御朱印をお土産にし、夕方無事我が家に到着。



(富山市在住)

第 27 回上高地談話会（涸沢）報告 その 2

小林 久雄

山田耕太郎さんから『北米での経験を通して見た北アルプスと山小屋という文化について』
しっかり一時間越えのご講演をいただきました。

素敵なお米の写真と経験談に楽しいひと時でした。驚きはナショナルパークのトイレ事情。
公園内の入場費等々から、素敵なおトイレ事情を想像してましたが??ビックリでした。道標や登山道整備なども、北アルプスは流石です。

横尾山荘を担うお二人の様子から、様々な未来を感じるひと時でした。

ヒュッテの夕餉の素敵なおことに加えて天候回復とテラスの二次会など久々の楽しい一夜でした。素敵なお夕焼けに加え、涸沢槍の三日月残雪と奥穂上空の三日月さん。とってもムード的なナイトでした。

信州大学山岳友の会会報 第 45 号

発行日：2022 年 11 月 1 日 発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp